



# 飲酒運転抑止装置 アルコ・インターロックPro を試験的に導入しました

国土交通省は、2011年5月から、自動車運送事業者の点呼において運転者の酒気帯びの有無の確認を行う際に、アルコール検知器でチェックすることを義務化されました。

これを受け当社では、アルコール濃度を検知するとエンジンが始動できないシステム「アルコ・インターロックPro」を試験的にトラックに導入しました。



ハンドセットに4秒間息を吹きかけアルコール量を測定。  
アルコールが検知されなければエンジン始動可能になります。

## ハンドセット

専用マウスピースを先端に差し込み呼気を吹きかけます  
測定したデータを記録し、運行終了後はPCにデータを移すことが可能です



## コントロールボックス

車両のインゲニッションに接続し、ハンドセットに呼気を吹きかけたとき一定のアルコール濃度を検知すると、エンジンを始動させません

## ◆様々な機能

1. 呼気の吸入、吐出のダブルチェック機能  
→風船などの呼気のごまかしに対応
2. 再アルコール測定機能  
→アルコール測定から一定時間後、再検査要求
3. 走行中にアルコール測定させない機能  
→走行中の安全性確保

## ◆アルコ・インターロックPROの特徴

運転席に取り付けたハンドセットに息を吹きかけ、1L当たり0.05mg以上のアルコールが検出されるとエンジンが掛かりません。

また運行中も、あらかじめ設定した一定の時間ごとに、エンジンを切り、定期的にアルコールのチェックする「呼気再テスト」の機能もあります。

配送中はもちろん、遠隔地での休憩時、一時帰宅した際などの管理もしっかりできます。

なお、運行終了後は、ハンドセットを取り外しパソコンにつなぐことで、エンジンON・OFFの日時や、アルコール量などの測定結果を取り込むことが可能です。

ハンドセットのアルコールセンサーには高精度燃料電池センサーが使われています。通常日本で使用されている半導体ガスセンサーの約10倍の測定精度であり、アルコール濃度の測定レベル調整が可能である為、酒気帯運転とされる0.15mg/Lより、低い量での運転もさせません。

新車に取り付けました



## ◆データの取り出し・保管

ハンドセットを取り外しパソコンに接続することで、この装置で測定した記録データを簡単に取り出すことが可能です。

運行終了後は、日時・操作記録毎などに整理、エクセルなどのソフトで保存することが可能です。